

松田町立松田小学校

研究テーマ：みんなで考え、みんなが分かる授業 ― 対話的な学びを通して ―

1 実践の目的

学校教育目標「自分や仲間のよさを生かして、たくましく生きる子どもの育成」を達成するため、今年度の研究テーマを次のように設定した。

みんなで考え、みんなが分かる授業
― 対話的な学びを通して ―

研究テーマに向け、児童に「論理的思考力」と「多様性を認め共に学び合う力」を身に付けさせることをめざし、研究を進めることとした。また、昨年度の年間反省で、「講師から新しい授業方法を学び、よいものであることは分かるが、自分の実践に落とし込むことに課題を感じている。」という意見があがった。このことから、本校教員に授業改善をしたいという意欲があるものの、実際の改善には悩みを抱えていると考えた。そこで、校内研究の取り組みを日々の授業の中で再現性のあるものにすることをめざし実践してきた。

2 実践の内容

（１）校内研究の体制

校内研究を進めるにあたり、学校長、教頭、教務主任、研究主任、研究推進委員で研究推進委員会を組織した。年度初めに、研究推進委員会で、今年度の研究テーマや方向性を話し合い、校内研究全体会の場で提案・決定した。研究授業は、各学年と支援級の１回ずつの提案で全７回とし、全て全体研で実施した。指導案検討は低・中・高の学年団で行

い、系統性を意識できるようにした。

（２）研究授業・研究協議の様子

今年度、体育科と道徳科を窓口とし研究授業を実施した。講師として、体育科では、横浜国立大学教育学部附属学校部長である梅澤秋久教授に指導助言と講話を依頼した。道徳科は、筑波大学付属小学校 加藤宣行教諭に本校児童を対象とした授業と教員向けの講話を職員研修として依頼した。各回の研究協議では、全教員が「自分の授業にどう生かすか。」という視点を常に意識して協議を行った。研究授業の回を追うごとに、それまでの学びを生かした授業となった。加えて、協議の中では日々の各教員の取り組みも交えた協議ができている様子が見られた。

3 実践の成果と課題

（１）教員の変容

年間反省では、授業者だけでなく、多数の教員から授業改善ができたという意見が出た。具体的な教員の変容を次に示す。

【体育科】

- ①授業者が、「運動特性は何か」という視点を明確にして、単元を構成できるようになってきた。
- ②授業者が主活動へのつながりや身に付けさせたい技能を意識して、5UP（準備運動・主活動のスキルアップにつながる運動）が考えられるようになった。
- ③どの子ども運動を楽しみ没頭することに向け、授業者がルール調整や環境デザインの工夫を意識できるようになった。

【道徳科】

- ①授業者が、価値の変容に向けて導入の工夫ができるようになってきた。
- ②授業者が、記号、矢印などを使用し構造化された板書を意識したことで、言語化しにくいことを分かりやすく児童に伝えられるようになってきた。
- ③授業者が、学びを児童の学校生活に返すという視点を持ち、授業の中で布石を打てるようになってきている。

これらの変容と共に、「環境デザインを工夫することにより、児童を学習に没頭させる。」「授業参観、研究協議での学びを日々の自分の実践に生かす。」この2点についても、各教員の意識の高まりが感じられている。

(2) 児童の変容

学期毎のアンケート結果では、

「授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか。」

「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」

という項目において、

「そう思う・どちらかといえばそう思う」を選択した児童の割合が1学期から2学期にかけて上昇した。この結果から、児童が主体的に学習へ向かう意欲が高まっていると考える。特に、窓口とした2教科では次のような変容があった。

体育科では、これまで運動を得意とする児童が活躍し、苦手意識をもつ児童には「やらされている」という様子が見て取れた。しかし、授業改善を行ってきたことで、みんなが楽しめるようにルールの調整を求める声があがったり、授業の様々な場面で他者を手助けする様子が見られたりするようになった。こうした児童の利他行動は、学級経営の面でもよい影響を与えている。道徳科で

は、これまで、児童にとって分かり切ったことを確認して授業が進む様子が見られた。今回、読み物道徳からの脱却を図ったことで、年間反省では「児童の道徳ノートの振り返りに、以前より深く思考する様子が見られるようになった。」という意見があがった。上辺だけの理解だったことに対し、児童が疑問をもち、議論することができるようになったのだと考える。年間反省では、研究による児童の変容である「他者を認め思いやる行動」や「友達と議論し深く思考する経験」は、よりよい学級経営へと繋がるという意見があがった。

これらのことから、研究により、児童に身に付けさせたい力が本校児童につきつつあると考える。

4 今後の展開

次年度も、各教員が校内研究の学びを日々の授業に生かすことを重視し、組織的に授業改善を行っていく。体育科では、今年度、全ての授業提案が「ゲーム」領域だったことで、ルールや環境の調整という点において共通理解し、各自の実践に落とし込むことができた。次年度は、学んだことを他領域に広げた授業提案をすることで、各教員がカリキュラムマネジメントの視点をもてるよう研究を進めたい。道徳科においては、価値の変容につながる意図のある問い返しについて課題があるという意見が年間反省であがった。ねらう価値の変容へと児童を導くためには、児童の言葉を生かした問返しが必要となる。一層の児童理解に努めると共に、学習指導要領に示される、内容項目の2学年ごとの緩やかな系統性についても意識した研究を行っていきたい。